

病虫害情報(第7号)10月予報

令和8年9月30日
神奈川県農業技術センター

病虫害防除部 TEL 0463 - 58 - 0333
ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

- I 10月の主な病虫害の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稻、カンキツ、ナシ、カキ、抑制トマト、促成トマト、抑制キュウリ、促成イチゴ、ネギ、キャベツ、ダイコン】
II 10月の気象予報と病虫害発生予報の根拠 9

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。
○ 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
○ [神奈川県総合防除計画を参考にし、化学農薬のみに依存しない防除に努めましょう。](#)
※ 農薬に関する情報は、令和8年9月25日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 10月の主な病虫害の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

【水稻】

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ※防除のポイント
イネ縞葉枯病	—	—	❖ 9月調査では、イネ縞葉枯病の発生は平年よりやや少ない。媒介虫のヒメトビウンカの越冬場所を減らすため次の対策を実施する。 ①「ひこばえ」や水田内雑草をすき込む。 ②畦畔や休耕田の除草を徹底する。
スクミリンゴガイ	—	△	❖ スクミリンゴガイの生存率を下げる目的で次の対策を実施する。 ①秋期に水田を複数回耕起すると殺貝効果が高い。耕うんは走行速度を遅くし、ロータリーの回転を速くして浅く細かく耕す。 ②休耕田も発生源になるので、できるだけ①の対策を実施する。 ③未発生水田への貝の持ち込みを防止するため、トラクターなどに付着した泥は使用後に洗浄する。他水田でも使用する場合は、未発生水田の耕起を先に行うなど順番を考慮する。 ❖ 詳細は、以下の防除対策資料を参照すること。 神奈川県スクミリンゴガイ防除対策マニュアル（農業技術センター）

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和8年度・第7号・10月) 神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 果実肥大:並(足柄地区事務所:普通温州)

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
ミカンハダニ	並	○	オマイト水和剤 みかん：[7日,2回] 750倍 みかんを除くかんきつ：[14日,2回] 750倍 等 ❖ 収穫果を長期貯蔵する場合は防除が重要である。
カメムシ類	やや多	△	アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 ロディー乳剤 [7日,4回] 2,000倍 等 ❖ 山際の園地では飛来に注意する。薬剤散布後も飛来が見られる場合は、必要に応じて追加防除を行う。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ナ シ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
黒星病	やや少	○	(予) オキシラン水和剤 [21日,9回] 500～600倍 等 ☞ オキシラン水和剤は混合剤。総使用回数に注意する。 ❖ 休眠芽への感染時期になるので、防除を徹底する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【カ キ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
カメムシ類	やや多	△	アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 テルスターフロアブル [3日,2回] 3,000～6,000倍 等 ❖ 山際の園地では飛来に注意する。飛来が見られたらただちに防除する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし

[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和8年度・第7号・10月) …… 神奈川県農業技術センター

【抑制トマト】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント										
葉かび病	－	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期,－] 葉かび病:1,000倍、うどんこ病:1,000～2,000倍 (予) ボタニガードES [発病前～発病初期,－] うどんこ病:1,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 ☞ パンチョTFは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) アフェットフロアブル [前日,3回] 葉かび病:2,000倍、うどんこ病:2,000～4,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,－] うどんこ病:300～600倍 (治) ベミデタッチ [前日,－] うどんこ病:500倍 等 ❖ 葉かび病の抵抗性品種を使用している場合でも、その抵抗性を無効化させないために、ほ場内の菌密度上昇を防ぐ薬剤防除は必要である。										
うどんこ病	－	○											
アブラムシ類	並	○	ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000～2,000倍 マッチ乳剤 [前日,4回] コナジラミ類:2,000倍、アザミウマ類:1,000～2,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍 ボタニガードES [発生初期,－] コナジラミ類:1,000～2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,－] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 ベミデタッチ [前日,－] コナジラミ類:500倍 等 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 ❖ ウイルス病への感染を防ぐため、害虫防除を徹底する。 <table><tr><th>発生するウイルス病</th><th>媒介する害虫</th></tr><tr><td>CMV等(トマトモザイク病)</td><td>アブラムシ類</td></tr><tr><td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td><td rowspan="2">コナジラミ類</td></tr><tr><td>ToCV(トマト黄化病)</td></tr><tr><td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td><td rowspan="2">アザミウマ類</td></tr><tr><td>CSNV(トマト茎えそ病)</td></tr></table> ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ❖ 施設開口部に0.4mm目合い以下の防虫ネットを2重被覆する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)	TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類												
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類												
ToCV(トマト黄化病)													
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類												
CSNV(トマト茎えそ病)													
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや多	○											
アザミウマ類	並	○											

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和8年度・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント										
アブラムシ類	並	○	【育苗期:粒剤施用】 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] コナジラミ類:1～2g/株 プリロソソ粒剤オメガ [育苗期後半～定植時,1回:株元散布] 2g/株 【育苗期:散布】 ベストガード水溶剤 [前日,3回] 1,000～2,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 ボタニガードES [発生初期,ー] コナジラミ類:1,000～2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,ー] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 ベミデタッチ [前日,ー] コナジラミ類:500倍 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 ❖ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、害虫防除を徹底する。 <table><tr><th>発生するウイルス病</th><th>媒介する害虫</th></tr><tr><td>CMV等(トマトモザイク病)</td><td>アブラムシ類</td></tr><tr><td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td><td rowspan="2">コナジラミ類</td></tr><tr><td>ToCV(トマト黄化病)</td></tr><tr><td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td><td rowspan="2">アザミウマ類</td></tr><tr><td>CSNV(トマト茎えそ病)</td></tr></table> ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ❖ 施設開口部に0.4mm目合い以下の防虫ネットを2重被覆する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)	TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類												
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類												
ToCV(トマト黄化病)													
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類												
CSNV(トマト茎えそ病)													
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや多	○											
アザミウマ類	並	○											

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和8年度・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

【抑制キュウリ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント									
べと病	並	○	(予) アリエッティC水和剤[前日,3回] 400～800倍 ☞ アリエッティは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ピシロックフロアブル [前日,3回] 1,000倍 (予・治) ゴーベックエンテクタSE [前日,2回] 4,000倍 等 ☞ ゴーベックエンテクタSEは混合剤。総使用回数に注意する。 ❖ 草勢低下と夜間の結露等による葉の濡れが発生を助長する。									
うどんこ病	やや少	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期,－] 1,000～2,000倍 (予) ボタニガードES [発病前～発病初期,－] 1,000倍 (予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000～3,000倍 (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000倍 等									
褐斑病	並	○	(予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000～3,000倍 (予) アリエッティC水和剤[前日,3回] 400～800倍 ☞ アリエッティは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) カンタスドライフロアブル [前日,3回] 1,500倍 等 ❖ 多湿状態で施設を密閉すると蔓延しやすく、夜間の結露等による葉の濡れが発生を助長する。									
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや多	○	ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500～5,000倍 ベストガード水溶剤 [前日,3回] コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ、アブラムシ類: 1,000～2,000倍 ベネビアOD [前日,3回] 2,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 ボタニガードES [発生初期,－] 1,000倍 等									
オンシツ コナジラミ	やや多	○										
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	並	○										
アブラムシ類	並	○										
			❖ ウイルス病の感染を防ぐため、害虫防除を徹底する。 <table><tr><th>発生するウイルス病</th><th>媒介する害虫</th></tr><tr><td>CMV等(キュウリモザイク病)</td><td>アブラムシ類</td></tr><tr><td>CCYV(キュウリ退緑黄化病)</td><td rowspan="2">コナジラミ類</td></tr><tr><td>BPYV(キュウリ黄化病)</td></tr><tr><td>MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td><td>アザミウマ類</td></tr></table> ❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ❖ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ❖ 施設開口部に0.4mm目合い以下の防虫ネットを2重被覆する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類	CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫											
CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類											
CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類											
BPYV(キュウリ黄化病)												
MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類											

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和8年度・第7号・10月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ※防除のポイント
うどんこ病	—	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, —] 1,000～2,000倍 (予) ボタニガードES [発病前～発病初期, —] 1,000倍 (予・治) モレスタン水和剤 [前日, 2回] 3,000～4,000倍 (予・治) ポリオキシシAL水和剤 [収穫開始14日前まで, 3回] 1,000倍 (予・治) クロスアウトフロアブル [前日, 3回] 3,000～4,000倍 (治) エコピタ液剤 [前日, —] 100倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, —] 300～600倍 (治) サフオイル乳剤 [前日, —] 300倍 等
アブラムシ類	並	○	ウララDF [前日, 2回] 2,000～4,000倍 バリアード顆粒水和剤 [前日, 3回] 2,000～4,000倍 エコピタ液剤 [前日, —] 100倍 サンクリスタル乳剤 [前日, —] 300倍 サフオイル乳剤 [前日, —] 300～500倍 ボタニガードES [発生初期, —] 1,000倍 等
アザミウマ類	—	○	ディアナSC [前日, 2回] 2,500～5,000倍 プレオフロアブル [前日, 4回] 1,000倍 マッチ乳剤 [前日, 4回]
ハスモンヨトウ	並	○	アザミウマ類:1,000～2,000倍、ハスモンヨトウ:3,000倍 ボタニガードES [発生初期, —] アザミウマ類:1,000倍 等
ハダニ類	—	○	スターマイトフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 エコピタ液剤 [前日, —] 100倍 サンクリスタル乳剤 [前日, —] 300～600倍 サフオイル乳剤 [前日, —] 300～500倍 ボタニガードES [発生初期, —] 1,000倍 等 ※ 育苗期のハダニ類を本ぼへ持ち込まないよう定植までに防除を徹底する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

- ▶ 訪花昆虫・天敵を利用する際は使用薬剤の影響日数に注意して薬剤の選択を行う。
- ▶ 農薬散布の際は、ミツバチ巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。

病害虫情報 (令和8年度・第7号・10月) …… 神奈川県農業技術センター

【ネギ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ※防除のポイント
さび病	並	○	(予・治) ロブラール水和剤 [14日,3回] 黒斑病:1,000～1,500倍 (予・治) ラリー水和剤 [7日,3回] さび病:2,000倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日,2回] 2,000倍 等
黒斑病	並	○	❖ 台風通過後は茎葉の傷みや多湿により病害の発生が助長されるため、天候が回復したら速やかに殺菌剤を散布する。 ❖ 窒素の過不足は病害の発生を助長するので、適切な肥培管理を行う。 ❖ 発生初期から定期的に防除する。 ❖ 薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。
ネギアザミウマ	並	○	ベネビアOD [前日,3回] 2,000倍 ファインセーブフロアブル [3日,2回] アザミウマ類:1,000～2,000倍
シロイチモジヨトウ	やや多	○	トルネードエースDF [14日,2回] シロイチモジヨトウ:1,000～2,000倍 コテツフロアブル [7日,2回] シロイチモジヨトウ:2,000倍 等 ❖ 薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。

〔防除要否〕◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
〔使用時期〕「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【キャベツ】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ※防除のポイント
黒腐病	並	○	(予) Zボルドー [発病前～発病初期,-] 500～1,000倍 (治) マイコシールド [7日,2回] 1,000～2,000倍 (予・治) カセット水和剤 [7日,3回] 1,000倍 等 ❖ 強い降雨の後には、予防散布を行う。 ❖ Zボルドーで薬害が懸念される場合は、クレフノン(100～200倍)を加用する。但し、汚れをおこすため収穫間際の使用は控える。
菌核病	—	○	(予・治) パレード20フロアブル [前日,3回] 2,000～4,000倍 (治) トップジンM水和剤 [3日,2回] 1,000～1,500倍 等
コナガ	やや少	○	ベネビアOD [前日,3回] 2,000～4,000倍 プロフレアSC [前日,3回] 2,000～4,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回]
ヨトウムシ類 ハスモンヨトウ	並	○	コナガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、オオタバコガ:1,000～1,500倍
ヨトウムシ (ヨトウガ)	やや多	○	シロイチモジヨトウ:1,000倍 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。
シロイチモジヨトウ	やや多	○	トルネードエースDF [7日,2回] コナガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、シロイチモジヨトウ:1,000～2,000倍 等
オオタバコガ	並	○	❖ 大型チョウ目害虫では、結球内に潜り込んだ幼虫には薬剤の効果が劣るので、結球前までの防除を徹底する。
ネギアザミウマ	並	○	ベネビアOD [前日,3回] 2,000倍 ハチハチ乳剤 [14日,2回]
アブラムシ類	並	○	アザミウマ類:1,000倍、アブラムシ類:1,000～2,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [7日,3回] ネギアザミウマ:1,000倍 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。

〔防除要否〕◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
〔使用時期〕「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和8年度・第7号・10月) 神奈川県農業技術センター

【ダイコン】

病 害 虫 名	発生 予報 (平年比)	防除 要否	使 用 す る 薬 剤 例 ❖防除のポイント
白さび病 (わっか症)	—	○	(予) ランマンフロアブル [3日,3回] 2,000倍 (予・治) ピシロックフロアブル [前日,2回] 1,000倍 (治) ハチハチ乳剤 [30日,1回] 2,000倍 等
アブラムシ類	並	○	ハチハチ乳剤 [30日,1回] 2,000倍 ダントツ水溶剤 [7日,2回] アブラムシ類:2,000～4,000倍 エスマルクDF [発生初期(但し、前日),—]
ハイマダラノメイガ (ダイコンシンク イムシ)	並	○	ハイマダラノメイガ:1,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [14日,3回] ハイマダラノメイガ:1,500倍 ☞ アフームエクセラは混合剤。総使用回数に注意する。 等
ナモグリバエ	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病虫害情報 (令和8年度・第7号・10月) ・・・・ 神奈川県農業技術センター

Ⅱ 10月の気象予報と病虫害発生予報の根拠

(1) 10月の気象予報(気象庁9月18日発表3か月予報)

〈天 気〉

天気は数日の周期で変わるでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	10%	40%	50%
降 水 量	40%	30%	30%
日照時間*	30%	30%	40%

*9月24日発表1か月予報による。

(2) 10月の病虫害発生予報の根拠

作物名	病虫害名	発生量		予 報 の 根 拠
		程度	平年比	
カンキツ	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、無防除区で発生が平年並(±)、慣行防除区で発生が平年より少ない(－)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ナシ	黒星病	少	やや少	1) 巡回調査では、徒長枝葉と短果枝葉での発生は平年よりやや少ない(－)。 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生は平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
果樹全般	カメムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、カキでの被害果の発生は平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、カキでの被害果は、平年よりやや少ない。(－) 3) フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、伊勢原は平年並(±)、南足柄は平年よりやや少なく(－)、県予察ほ(根府川)は少ない(－)。 4) 予察灯への誘殺数は、山北、県予察ほ(根府川)では平年並(±)、県予察ほ(上吉沢)では平年より多い(＋)。 5) ヒノキ球果におけるチャバネアオカメムシ成虫の寄生数(県内5地点調査)は、平年よりも多い。(＋) 6) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病虫害情報 (令和8年度・第7号・10月) ・・・・ 神奈川県農業技術センター

作物名	病虫害名	発生量		予 報 の 根 拠
		程度	平年比	
チャ	カンザワハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。 (－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (＋)
抑制トマト 促成トマト	タバココナジラミ	少	やや多	1) 抑制トマトの巡回調査では、発生が平年並。 (±) 2) 抑制キュウリの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (＋)
	アザミウマ類	少	並	1) 青色粘着板(平塚、大磯)への誘殺数は、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマともに平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (＋)
抑制キュウリ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。 (－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (±)
	褐斑病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (±)
	オンシツコナジラミ	少	やや多	1) 抑制キュウリの巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 抑制トマトの巡回調査では、発生が平年並。 (±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (＋)
	タバココナジラミ	少	やや多	1) 抑制キュウリの巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 抑制トマトの巡回調査では、発生が平年並。 (±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (＋)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。 (－) 2) 青色粘着板への誘殺数は、平塚で平年より多く(＋)、大磯で平年より少ない(－)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (＋)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。 (－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。 (＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報 (令和8年度・第7号・10月) ・・・・ 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ネギ	さび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	黒斑病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ネギアザミウマ	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
キャベツ	黒腐病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦と伊勢原では平年並(±)、横浜では平年よりやや少ない(－)。 3) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢では平年並(±)、三浦では平年より少ない(－)。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ネギアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ダイコン	ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイムシ)	少	並	1) 巡回調査では、ダイコンで発生が平年並(±)、キャベツで発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 県予察ほ(上吉沢)の誘致花(クレオメ)への寄生は、平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報 (令和8年度・第7号・10月)・・・神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
野菜全般	アブラムシ類	－	並	1) 巡回調査では、キャベツでは、発生が平年よりやや多く(+)、抑制キュウリ、抑制トマトでは、発生が平年並(±)。 2) 県予察ほの黄色水盤への飛来量は、上吉沢では平年よりやや多く(+)、三浦では平年並(±)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ヨトウムシ類 ハスモンヨトウ ヨトウムシ(ヨトウガ)	－ －	並 やや多	1) キャベツの巡回調査では、ヨトウムシ類の発生が平年よりやや少ない。(－) 2) ネギの巡回調査では、ヨトウムシ類の発生が平年より多い。(+) 3) ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数は、県予察ほ(三浦、上吉沢)では平年並(±)、三浦、横浜、伊勢原、では平年よりやや少ない(－)。 4) ヨトウガの県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢では平年より多く、三浦では平年よりやや多い。(+) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	シロイチモジヨトウ	－	やや多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年より多く、横浜では平年よりやや多く(+)、伊勢原では平年並(±)。 2) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢、三浦ともに平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	オオタバコガ	－	並	1) キャベツの巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、伊勢原では平年並(±)、横浜では平年よりやや少ない(－)。 3) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、三浦では平年より多く(+)、上吉沢では平年よりやや少ない(－)。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」………… (＋): 多発要因 (－): 少発要因